

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護職員初任者研修講座Ⅲ (こころとからだのしくみと生活支援技術) care staff beginner's training lectureⅢ		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(介護職員初任者研修ユニット必修)	介護職員初任者研修ユニット履修者のみ履修可
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護職員初任者研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
石川幸子	非常勤講師室	授業内でお伝えします。		授業中に指示します
授業の概要				
生活支援技術の基本となるこころとからだのしくみに関する知識を習得する。そのうえで、日常生活の基本となる移乗・移動に関する基礎知識や技術について学ぶ。さらに福祉用具の活用により自立に向けた個別性のある技術について習得する。				
授業の目標				
①介護に関するこころとからだのしくみおよびICFの視点に基づいた基本的な考え方を説明できるようにする。 ②移動に関するこころとからだのしくみを理解し、自立に向けた適切な生活支援技術を習得できるようにする。 ③移動に関連した福祉用具の適切な使用方法を習得し、活用できるようにする。(褥瘡予防を含む) ④緊急時における基本的な対応方法を習得できるようにする。				
授業の方法				
利用者役と介護者役の両面から演習を行う。講義も併用する。				
学習の成果(学習成果)				
①基本的な人体の構造と機能を簡略に図式化し、説明することができる。 ②移動に関する生活障害に対して、福祉用具を活用しながら適切な技術を習得することができる。 ③緊急時に対して適切に対応することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスに沿って)、演習時の注意事項・演習室の使い方 基本知識の学習① 基本的なこころとからだのしくみ			
第2回目	基本知識の学習② 基本的なこころとからだのしくみ、ICFに基づく介護の基本的な考え方			
第3回目	基本知識の学習③ 介護に関するからだのしくみ、移動に関わる障害と生活障害 基本的な体位			
第4回目	基本知識の学習④ 安楽な体位(褥瘡予防を含む) 【演習】			
第5回目	移動に関わる生活支援技術① ボディメカニクス 【演習】			
第6回目	移動に関わる生活支援技術② 移動に関する福祉用具 種類と使い方 【演習】			

第7回目	移動に関わる生活支援技術③ 片麻痺のある人への体位変換（一部介助） 上方移動、水平移動 側臥位、端座位 【演習】	
第8回目	移動に関わる生活支援技術④ 片麻痺のある人への移乗（一部介助） 端座位、車いす 【演習】 （レポート1 提出：第9回目）	
第9回目	移動に関わる生活支援技術⑤ 片麻痺のある人への体位変換・移乗（全介助） 側臥位、端座位 車いす、ストレッチャー 【演習】	
第10回目	移動に関わる生活支援技術⑥ 肢体不自由のある人への体位変換・移乗（一部介助・全介助） 【演習】 （レポート2 提出：第11回目）	
第11回目	移動に関わる生活支援技術⑦⑧ ⑦福祉用具の活用 移動用リフト、リクライニング式車いす ⑧視覚に障害のある人の歩行介助 基本姿勢、狭所やドアの通過、椅子への誘導 【演習】	
第12回目	移動に関わる生活支援技術⑨ 視覚に障害のある人の歩行介助 階段の昇降、クロックポジション 【演習】	
第13回目	緊急時の対応① 利用者の理解、予測される事故、緊急度の判断、適切な体位、運搬法	
第14回目	緊急時の対応② 創傷、熱傷、骨折	
第15回目	緊急時の対応③ 気道遺物の除去、止血法、包帯法 【一部演習】	
事前・事後学習	講義内容は演習へ活かせるよう演習前に復習する。演習後は技法で不安な部分などを自主練習を繰り返し身に付けること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	テキスト・マニュアル・配布資料を活用し、自主的にメモしている。演習時は身じたくを整え、積極的に参加している。指導を受け入れ、技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。
レポート	20%	1・2 演習の振り返り（各10%） S：演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。
調査報告書		
小テスト		
試験	60%	授業の内容を踏まえた筆記試験である。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
①介護職員初任者研修テキスト 第2巻 「自立に向けた介護の実際」 中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル		
履修上の留意点・ルール		
選択科目であるから目的意識を持ち意欲的に取り組むこと。講義・演習ともに積極的に臨み、演習時は身だしなみを整えること。 また、自己練習し、技術の向上に努めること。		